
【キッチン】

とよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【キッチン】

【コード】

N2610V

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

キッチンのみんなのお話

包丁が言った。

「今日の夕飯なにかなー？」

大きい茶碗が言った。

「またカレーじゃねーのー？」

…ココはキッチン。

いつもの様に、みんな楽しく会話している。

スプーンが言った。

「またカレーかー」

平らなお皿が言った。

「じゃあ…また…オレラが活躍すんじゃん」

フォークが言った。

「おれは、またもやサラダ的なものだろうか」

お父さんハシが言った。

「わたしは、またもや、らっきよだろうか」

子供ハシ達が、ワイワイ、ガヤガヤ、みんなで言った。

「ぼくはー？」

「わたしはー？」

「おれたちはー？」

バター塗るヤツが言った。

「おれカンケーねーし」

わりばしが言った。

「おれ捨てられるし…多分あと1回くらいで捨てられる感じあるし、てか、捨てられる時ボキッて折られる感じるし…」

バター塗るヤツが言った。

「おれ、朝食でしか活躍しねーし…しかも、この家ほとんど、朝から米モードだから更におれの出番ねーし…しかも、たまにナイフで塗ったりしてるヤツいるから、更におれの出番ねーし…」

ナイフが言った。

「たしかにな、あれは、俺も嫌なんだけどね」

ピザ切る専用のヤツが言った。

「そんな話すら、俺からしたら嫌味だけどな」

その時、少し離れた流し口から、つまようじが言いました。

「ねえー？おれさー？死ぬのー？」

スプーンとフォークがほとんど同時に言いました。

「死ぬよ」

つまようじが言った。

「そっかー。ありがとう。バイバイ」

バター塗るヤツが言った。

「バイバイ」

お父さんハシが言った。

「バイバイ」

わりばしが言った。

「俺もすぐに後を追うさ」

子供ハシ達が、ワイワイ、ガヤガヤ、みんなで言った。

「ばいばい」「さよならなら」「バイビー」「バイバイ」

ナイフがボソツと、こう言った。

「全員、だまれ。傷付けるぞ……」

それに対し、スプーンは半笑いで言った。

「相変わらず尖ってんな」

ココはキッチン。

いつもの様にたわいも無い会話で盛り上がっている。

大きいお皿が言いました。

「結局今日もカレーだね」

小さな茶碗が言いました。

「そうだね。そうだね。私にらっきよが入れられるんだね」

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2610v/>

【キッチン】

2011年7月27日22時34分発行